

阿修羅展

The National Treasure ASHURA and Masterpieces from Kohfukuji

阿修羅のひみつ

阿修羅の物語

阿修羅はインドに古くからいた神さまで、天空の覇権をめぐる戦いに執念を燃やしました。

インドの最高神インドラ(帝釈天)と壮絶な争いを繰り広げたことで有名です。最後には戦いに敗れ、仏教を深く信じるようになり、その像は仏教を守る神さまとしてまつられています。



阿修羅の姿

阿修羅には3つの顔、6本の腕があります。ちよつとむずかしい仏像用語でいうと、三面六臂。ひとりで数人分の活躍をするような強い力、この世のものではない不思議な力をもっていることを表わしているのでしょう。



阿修羅の仲間

阿修羅像は興福寺の西金堂に、八部衆のなかのひとりとしてまつられていました。八部衆というのは、釈迦に比べ、仏教を守るガードマン。五部浄、沙羯羅、迦楼羅、鳩槃荼、阿修羅、乾闥婆、緊那羅、畢婆迦羅の8人のユニットです。鳥の顔をしたもの、頭の上に蛇をのせたものなど、不思議な姿をしています。



阿修羅の表情

阿修羅は戦いの神なので、怒った勇ましい顔で表現されます。けれども、この阿修羅の顔はまるで子どものよう。ちよつとまゆをひそめて悲しげな表情をしています。それはなぜなのでしょう。

阿修羅がつくられた奈良時代までさかのぼれば、そのひみつがわかるかもしれません。

この像をつくらせたのは、聖武天皇のお后の光明皇后です。天平5年(733)に、皇后のお母さんが亡くなり、皇后はお母さんを思って興福寺に西金堂という建物を建てることにしました。そして、1年後の天平6年1月11日にたくさんの仏像をおまつりして供養をしました。それらの仏像は、金光明最勝王経という古いお経に記された物語の、ある場面を再現するように置かれていたといわれています。それは、お釈迦様の周りにみなが集まってじつと話を聞いているという場面だったのです。そのうちのひとりが、この阿修羅像です。



阿修羅 PROFILE

展示室で阿修羅像を見て、さらに図書館やインターネットで調べ、PROFILEを完成させよう。

名前	阿修羅 サンスクリット語で asura
誕生日	天平 <input type="text"/> 年1月11日
身長	153.4cm ただし、高く結った髪の上までの高さ。頭の上までの高さは約144cm。 頭の長さが約18cmなので、八頭身の理想的な体型といえる。
体重	14.85kg
ジャンル	仏像 天部
像の現住所	奈良県 <input type="text"/> 寺 インドの神さまだったころは、海底、または地上と地獄の間に住んでいた。
仕事	仏教界のガードマン
仕える人	釈迦如来
名前の由来	「生命(asu)を与える(ra)者」あるいは 「非(a)天(sura)」など、解釈はいろいろ
戦った相手	<input type="text"/>
像をつくった人	将軍万福
像のつくり方	脱活乾漆造り 麻布を <input type="text"/> で塗り固め、はり重ねて形を作る作り方。 中は空洞、心木あり。
ファッション	裳(裙)〈スカートのような腰布〉 条帛(上半身に巻きつける細長い布) 天衣(肩にかける細長い布)
アクセサリ	瓔珞(ネックレス)、腕釧(ブレスレット)、臂釧(二の腕の腕輪)
はきもの	板金剛(サンダルのようなはきもの)
立っているところ	洲浜座(海に突き出た岩を表わす台座)
阿修羅に 関係することば	【修羅場】悲惨な戦いが繰り広げられる場所や状況 【修羅物】戦いの場面が出てくる能のだしもの



「国宝 阿修羅展」の見どころガイド

「国宝 阿修羅展」では、阿修羅の姿を間近で、それもガラスケースに入っていない状態で、前から、横から、後ろから、台の上に乗って高いところからもじっくり見ることができます。

阿修羅がもともと興福寺の西金堂にまつられていたことは、「阿修羅のひみつ」(裏面)に書いたとおりですが、西金堂のなかにはほかに釈迦の10人の弟子たち、仏教の守り神である四天王など、全部で27体の像が大きな釈迦の像を囲むようにしてまつられていたそうです。たくさんの方の立派な像を作っておさめるのはとてもたいへんなことだったでしょう。お母さんの供養のために、お堂をつくった光明皇后の思いがこめられていたのですね。興福寺の西金堂はもうずいぶん昔に焼けてしまっただけで今はこのまゝです。「国宝 阿修羅展」はこの西金堂にあったお像で今も残っているものを集めています。仏像たちと一緒に、金鼓というきれいな音の出る鉦も展示されます。当時のお堂の中や、作った人の気持ちを想像してみると、奈良時代にタイムスリップできるかもしれません。

国宝 興福寺創建1300年記念
阿修羅展
 The National Treasure ASHURA and Masterpieces from Kohfukuji

2009年3月31日(火)~6月7日(日) 東京国立博物館平成館 月曜日休館(5月4日は開館、5月7日休館)
 観覧料:一般1500円、大学生1200円、高校生900円、中学生以下無料
 問い合わせ:ハローダイヤル03-5777-8600 主催:東京国立博物館、法相宗大本山興福寺、朝日新聞社、テレビ朝日